

原町区保育所父母の会連絡協議会 ふ れ あ い 懇 談 会 (第6回)

開催日 平成 26 年 10 月 30 日(木)
19 時 00 分から

開催地 よつば乳児保育園西町園ホール
参 加 者 16 名

【質疑】

質問 1 : 子育てする中で健康被害等心配だが、なぜ小児科医だけが足りないのか。

回答 1 : 25 年度から基幹型の初期臨床研修病院として指定され、医学部を卒業して医師免許を取ると最初の 2 年間は必ず初期研修をしなければなりません。初期研修医についても小児科を実習しなければなりません。市立総合病院として対応できないので、千葉県にある亀田総合病院に協力病院として手伝っていただいています。今後、先生方が小児科の分野を選択していただけるよう努めて参ります。

質問 2 : 除染作業員に暴行された、山に連れ去られた、イオンで車に乗せられた等話を聞くが、本当にそんなことはあるのか。

回答 2 : ご指摘の部分については、警察から連絡もなく把握していませんが、そういうことがあった場合は、必ず警察に届出することが第一です。届出することによって、再発防止につながります。

質問 3 : 鹿島区内の仮設住宅に空きが多くなっていて、復興に係る市外からの就労者にアパートが見つかるまで提供するとなっているが、具体的な条件や告知、無料なのか有料なのか。

回答 3 : 住宅の提供は、市の復興に係る仕事をしている方に市営住宅の一部を確保しています。光熱水費は有料ですが、家賃は無料です。仮設住宅については、県によって対応が違います。岩手県は、除染作業員も貸し出し対象ですが、現在、福島県と交渉中ですので、しばらくお待ちください。

質問 4 : 旭公園のお祭りに子どもを連れて行くが、個人所有の土地なので除染が勝手にできないと聞いているが、どうなっているのか。

回答 4 : 民間の所有で、公園の位置付けはしていません。地権者の同意をいただ

くことが大前提となりますので、今の計画では27年第1四半期となります。

質問5： 同意しないと除染をしないと言っているが、住んでいないところは、どこまでも追跡して同意させるのか。廃屋は、除染をしないと周りに波及すると思うがどうか。

回答5： 地域の安心を取り戻すため、地権者の方に丁寧に説明をして、同意をいただいてから除染をしています。ただし、まちなかについては借地借家の関係もあり、土地の所有者に同意をいただいてから敷地に入ることができるので、それぞれ個別に対応して参ります。

質問6： 交通往来の問題で、気を付けて自己防衛するのも大事だが、まちの中をピリピリして歩くのもコミュニティとしていかなものか。

回答6： 啓発活動をしっかりと徹底し、警察や各団体と連携して地域の安全確保に努めて参ります。

質問7： 南相馬市全体の学力を上げるため、教育環境の充実策として具体的に何かあるのか。

回答7： 震災があり放射能に汚染されたと言われていますが、自分の郷土を愛し誇りを持って、そういったことにも負けない強さ、気骨を持った子どもたちを育て参ります。皆様をお願いしたいことは、教育というのは学校だけではできません。家庭教育が必要です。さらには、地域教育が必要です。ここにいる私たちがタッグを組んで、子どもたちのために頑張っていくことが、素晴らしい子どもに育て上げる秘訣だと思います。

質問8： まちづくりを真剣に考える具体的な取組みやパブリックコメントの応募数は、具体的にどれくらいあるのか。

回答8： パブリックコメントについては、構想と基本計画の二つがあります。14名から37件の意見がありました。市民参加と協働で、どうすればまちづくりが一緒にできるのか考えていかなければなりません。市民活動団体や他の市民団体の中でも、市民ができることは市民が実施する。そのためには、どのような支援ができるのか、子どもたちを育てながら、まちづくりに関心を持てる環境を整える等、来年度に向けて検討して参ります。

質問 9 : 未来会議をもっと拡大して、それぞれのジャンルでワークショップを開催し、市の褒美とまでは言わないが、実現したところには市がお金を出すとか、意見のくみ取り方の態勢や対象も、ここに参加しているお父さんやお母さんを、さらに後押しできるような制度があるといいと思うがどうか。

回答 9 : 市と一緒に考えて考える人を増やすと同時に、ハードである建物は、国の復興予算を利用して建てても、担っていく人たちが育っていかなければ、本当の意味での活気にはつながりません。やる気のある、能力のある市民の皆様に担ってもらえるような形を拡大していくべきだと考えています。

質問 10 : 福島医大に県外から来ている産科医の河村先生が、相双ふくしまこども病院を建てると聞いているが、それは市と別なのか、どうなっているのか教えてほしい。

回答 10 : 市に直接話は来ていませんが、情報として間接的ではありますが、フェイスブック等で知っています。今後も情報は収集して参ります。

質問 11 : 南相馬市といえば、相馬野馬追の文化がある。こういった中で、子どもたちが乗馬できるようなまちづくりや南相馬市の歴史を子どもたちに教えながら、南相馬市のPR活動として県外に発信していくことも必要ではないか。

回答 11 : 震災前は、鹿島区のポニー牧場や不定期ですが、馬を飼っている方にお願いをして触れ合える機会を作っていました。現在は、震災ということもあり、少ない機会ではありますが、相馬野馬追振興競馬大会でポニー乗馬を実施していますが、子どもたちが馬に触れ合える機会をもっと多くしながら、相馬野馬追の馬事文化を発信して参ります。